

いわて復興だより

がんばろう！岩手 つながろう！岩手

三陸復興

第 80 号

平成 27 年 2 月 15 日号

復興に向けて歩み続ける岩手県の今を紹介します

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災津波。発災以来、全国そして海外からも多くの温かい励ましや御支援をいただいております。心から感謝申し上げます、この「つながり」を大切にしていきたいと思っております。

一年を通して一番寒い季節になり、岩手県もすっかり雪景色に包まれる今日この頃。

復興に向けて歩み続ける岩手の今を紹介します。

平成 26 年度「いわて三陸復興フォーラム」が開催されました

平成 27 年 1 月 15 日（木）、16 日（金）に、平成 26 年度「いわて三陸復興フォーラム」が、アイーナホール（盛岡市）他で開催されました。

このフォーラムは、岩手が本格復興に取り組んでいく姿を発信し、岩手にゆかりがある方々が集まる場を設け、復興に向けた人的ネットワークの強化を図ることを目的に開催されたものです。

15 日の全体会では、冒頭、達増知事は、「県では、今年度からの 3 年間で本格復興期間と位置付けています。本格復興の実現に向けては、若者や女性をはじめとした、地域住民のみなさん一人ひとりが主役となる“参画”、多様な復興主体の連携としての“つながり”、地域社会の“持続性”を重視した取組が重要です。」と語りました。

その後、「繋がりが紡ぎ出す心の復興へ 被災地のリレー」と題し、大阪大学大学院人間科学研究科教授 渥美公秀さんによる講演が行われ、過去の災害で支援を受けた方が、今度は支援する側で活動を行うリレーが復興に貢献するとのお話を頂きました。

また、様々な形で復興に携わっているの方々によるパネルディスカッションでは「繋げよう！続けよう！一人ひとりの復興アクション」と題し、復興への取組を多くの人や、次の世代へ繋げていくことについて意見が交わされました。

翌 16 日の報告会では、全国自治体からの応援職員等の活動発表や、意見交換などが行われました。



復興の取組を説明する達増知事



大阪大学大学院人間科学研究科教授 渥美公秀さんによる講演



パネルディスカッションの様子

国の重要無形民俗文化財として内定！

4 年ぶりに「鵜鳥神楽」の北回り巡業が再開しました 普代村

平成 27 年 1 月 12 日（月）から、海上の安全や大漁を願う「鵜鳥神楽（うのとるかぐら）」の巡業が普代村で始まりました。

鵜鳥神楽は、同村の卯子酉（うねとり）山にある鵜鳥神社の権現様を奉じて演じられる民族芸能です。巡業は、普代村を起点に沿岸部の久慈市方面を回る「北回り」と釜石市方面を回る「南回り」のコースがあり、毎年 1 月から 3 月にかけて、1 年おきに黒森神楽（宮古市）と交代で、神楽衆を迎え入れる「神楽宿」と言われる民家や施設で演目を披露していました。

しかし、東日本大震災津波の影響で沿岸部では多くの神楽宿が被災。鵜鳥神楽は、中断を余儀なくされていましたが、宿の復興が進んだことから、平成 26 年の「南回り」の巡業に続き、4 年ぶりに「北回り」の巡業が再開されました。

また 1 月 16 日（金）には、鵜鳥神楽が国の重要無形民俗文化財指定の内定を受けました。

三陸沿岸に住む人々の心のよりどころとなる「鵜鳥神楽」は、一足早い春を運んでくれました。



鵜鳥神楽「舞立ち」の様子（写真提供：普代村）

平成 26 年度岩手県被災家屋等太陽光発電導入費補助金の申請期限について

お知らせ

県では、東日本大震災津波で家屋や事務所に被害（半壊以上）を受けた方が家屋等の修繕や新築等を行うときに太陽光発電設備を設置する経費の一部を支援しています（1kw 当たり 2 万円）。

この補助金の申請の受付は、平成 27 年 3 月 9 日（月）必着分までとなりますので、本年度補助金申請を予定している方は、申請期限にご注意ください。

詳しくは：岩手県環境生活部環境生活企画室 電話：019-629-5326

「浦の浜海水浴場」砂浜再生へ 復興交付金 3 億円の事業が認定されました

山田町

復興庁は、東日本大震災津波で壊滅的な被害を受けた山田町船越の「浦の浜海水浴場」を再生する復旧事業に、復興交付金約 3 億円を配分することを認定しました。

砂浜の再生に復興交付金を充てるのは、被災 3 県で初めてで、約 250 メートルにわたる砂浜を再生し、トイレやシャワー等の施設も復旧させます。

平成 27 年度には、復旧工事が始まり、平成 28 年の夏には、海水浴場が復活する予定です。

昨年、震災後 4 年ぶりにオープンした「荒神海水浴場」に続き、「浦の浜海水浴場」の砂浜の再生は、町の観光振興にも弾みがつくと期待されています。



復旧工事が予定されている「浦の浜」

知事と応援職員の懇談会が 行われました！

盛岡市

平成 27 年 2 月 6 日（金）と 9 日（月）に、復興支援のため、岩手県庁に派遣されている全国自治体からの応援職員と達増知事との懇談会が行われました。

懇談会には、応援職員を代表して、北は北海道から南は宮崎県までの職員 12 名が参加し、岩手県での生活で感じたことなどについて、意見交換しました。

応援職員からは、岩手県人の温かさ、想像以上の冬の厳しさに驚いたとの全国から集った職員ならではの率直な感想、そして観光で岩手を訪れたときに広大な面積を有する岩手県内の観光名所を巡りやすくするための交通網の整備が必要との意見などがありました。



達増知事と全国自治体からの応援職員

被災地・三陸の復興へ向け、多くの若者が情熱を注いでいます。連載「未来のさんりくびと」では、毎号、復興への熱い想いを秘めた若者を紹介していきます。

第 34 回目は、六串 タ子さんを紹介します。

PROFILE

高校卒業後、家業である三陸の海産物を扱う大槌町の卸問屋「六串商店」の販売店「駅前橋上市場サン・フィッシュ釜石」の店舗で働き始める。

東日本大震災津波で、自宅、加工場、倉庫が被災。震災後、父と共に軽トラックを使って移動販売を続けながら県内外のイベントに積極的に参加し、三陸の物産を PR している。

添加物を使わないお弁当で三陸を PR

三陸産のウニを主力商品として加工販売している六串商店は、東日本大震災津波で事業用車両も流された中、大槌町の商工会から軽トラックを借り、移動販売の形で仮設住宅を回りはじめました。

また、野菜を販売することができない農家や、

未来の

さんりく びと

六串商店
（駅前橋上市場サン・フィッシュ釜石）
六串 タ子
（むくし ゆうこ）さん



六串さんからのひと言：
三陸・大槌の海の幸を
食卓へ

商品を仕入れても売場がない商店の話をつきかけに軽トラ市も行ってきました。

2 月には、東京の日本料理店の笠原将弘シェフ監修のもと「三賛六（さんさんろく）弁当」を発売。

4 月には東京の伊勢丹百貨店で販売や、全国で開催されるイベントでの販売も予定されています。

地元・三陸産の海産物を使用し、添加物を一切使わないこのお弁当が、三陸の PR につながるものと期待されています。

世代を超えて復興へ

「大槌は、盛土が始まったばかりなので、まだ何もないし、観光客が寄れる場所ができればと思います。」と語る六串さん。

「父の世代にも頑張っ欲しいけど、これからは私たち世代が頑張らなければと思います。私たちが頑張れば、また下の世代も頑張ってくれると思うし、そうして沿岸の復興が進んでほしいです。」と復興に向けた思いを語りました。

岩手県の被害状況

平成 27 年 1 月 31 日現在

- ▶ 人的被害 死者（直接死）：4,672 名 行方不明者：1,129 名
- ▶ 建物被害（住家のみ、全半壊） 25,713 棟

被害状況等の詳細

義援金・寄付金の募集等

いわて防災情報ポータル

検索

皆様のご支援、ありがとうございます

平成 27 年 1 月 31 日現在

- ▶ 義援金受付状況 約 182 億 1,336 万円 (90,765 件)
- ▶ 寄付金受付状況 約 196 億 2,820 万円 (7,213 件)
- ▶ いわたの学び希望基金受付状況 約 71 億 8,758 万円 (14,912 件)

※ 被災した子どもたちが勉強やスポーツ等に励めるよう「くらし」「まなび」の支援に使われます。

ビジュアル豊富な【いわて復興だより Web】もご覧ください!! <http://iwate-fukkoudayori.com>

いわて復興だより 第 80 号 平成 27 年 2 月 15 日号 企画・発行：岩手県復興局復興推進課 ☎019-629-6925

いわて復興だよりバックナンバーは

いわて復興だより

検索

編集・印刷：シナプス

【次回のいわて復興だよりについて】 次回は 3 月 15 日号の発行となります。